

たとえば、地域の図書ボランティアの方々が中心になって、保護者と一緒



中学校図書室での図書の修理の様子

たとき、危機管理等の問題から、すべてを受け入れるのは難しいことではあります。

七戸町の「学校支援地域本部事業」と「放課後子ども教室推進事業」の取組を紹介

リスクを乗り越えての学校開放

学校・家庭・地域の連携協力の推進について、より一層の連携協力を進めるために、

青森県七戸町教育委員会生涯学習課 主幹 兼 社会教育主事 町屋淳一

学校・家庭・地域の連携協力を進めるために

～「学校・家庭・地域の連携協力推進事業」事業間の連携という視点から～



子どもを取り巻く環境が大きく変化するとともに、地域・家庭の教育力の低下が指摘

- ・学校支援地域本部事業
・放課後子ども教室推進事業
・家庭教育支援基盤形成事業

今回は、各事業の連携を進めている三つの自治体の取組を紹介します。

方々に集まる場を提供するという意味もあると捉え、受け入れることにしました。

我が子の親から地域住民へ



怪我が手当てなど水泳学習のサポートの様子

手伝い等の活動に、気軽に参加する機会が増えていきます。子どもたちは、よりきめ細やかな指導を受けられるようになりました。

青森県七戸町では、地域住民がボランティアとして学校の教育活動を支援する「学

秋田県五城目町では、防犯の専門家スクールガードリーダーとして配置すること

本特集から、それぞれの地域の実情に応じた、「学校・家庭・地域の連携協力推進事業」



連合婦人会の方々による校内の除草作業の様子

「学校支援地域本部事業」も「放課後子ども教室推進事業」も、学校・家庭・地域の三者

連携協力で「広げよう学校応援団」  
秋田県五城目町教育委員会 五城目小学校教育課

学校支援地域本部事業への取り組みと拡充

当町には1つの中学校と3つの小学校があり、それぞれの地域性に応じて、PTAを中心に学校を支援する体制が以前から確立していました。そんな中、もともと地域のボランティア活動が盛んであった1つの小学校で、「これまで以上に地域住民の力を学校に生かし、学校を活性化させたい」という校長先生の思いから、いち早く地域コーディネーターを確保し、学校支援地域本部事業に取り組みことになりました。

その後、本事業が学校・地域に好影響をもたらしているという実績と、「子どもは『町の宝』であり、『建物としての学校』は4つに分散しているけれども、『町という一つの学校』の中で地域の子どもたちを育てているのだ」という考えから、現在では地域コーディネーター14人を配置し、他の3校も含めた町全体で学校応援団の活動を展開しています。

関連事業との連携

現在当町では、学校教育の充実はもちろん、家庭や地域の教育力の向上も視野に入れながら、「学校支援地域本部事業」とともに

宮城県石沼市における家庭教育支援  
～放課後子ども教室と連携した取組～

地域の実態

当市の人口及び世帯数は毎年微増していますが、世帯あたりの人員は年々減少しており、また、3世代同居世帯数も年々減少し、核家族世帯や単身世帯が増えている状況です。また、18歳未満の児童人口は微減している反面、65歳以上人口は増加しており、少子高齢化が進行しています。

このことから、地域の中の子育て家庭の孤立傾向を生じさせ、子育てをしている親や子ども同士の交流機会の減少や育児不安などのストレスを抱えてしまうなどが懸念されます。

取組内容

- ①子育てに関する身近な相談窓口  
市内各小学校で週1回程度開催している放課後子ども教室の際、身近な相談窓口として、子育てに関する悩みなどに対応しました。
- ②子育てに関する情報紙の編集発行  
行政機関（生涯学習課や子ども福祉課）、児童館、子育て支援団体や子育てサークルなどが連携し、家庭教育や子育て

「放課後子ども教室推進事業」、「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」、学校図書館に非常勤司書を派遣する県事業「子ども読書夢プラン」等の関連事業に取り組んでいます。各事業の研修会や講習会を合同で実施するなど横の連携を意識的に図ってきたことで、それぞれ個別に事業に取り組むよりも、町民同士の交流が促進され、連携意識の高まりが見られるなど、多くの効果が表れてきています。

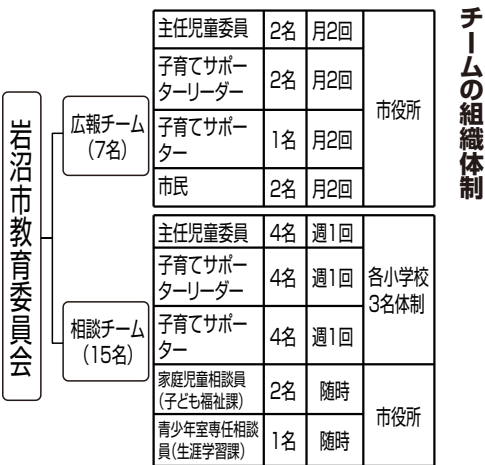
今後の展望

4人の地域コーディネーターがそれぞれの事業の趣旨をよく理解し熱心に取り組んでくれていることで、町民の事業に対する理解も深まり、学校・家庭・地域の連携協力体制はより強固なものになってきています。

学校支援地域本部事業を始めとする各種関連事業は、名称の違いはあるものの、地域の

に関する様々な情報を収集し、子育てに関する情報紙「Happyチャイルド・カレンダー」を毎月発行し、児童館、公民館、小児科病院、スパーなどで配布しました。子育てに関する講座やイベント情報、子育てサークルの日程、子育て相談コーナーなど、できるだけ多くの行事を掲載し、子育て中の親が気軽に行事等に参加できるきっかけとなるようにしました。

③家庭教育や子育てに関する情報の提供  
小・中学校において、保護者等が集まる様々な機会を活用し、家庭教育支援チーム員が子育て親育ち講座の講師となり、家庭教育や子育てに関する情報提供を行いました。



子どもは地域で育てるといふ共通の目的をもっています。「人」も「事業」も効果的に連携し、子どもたちの教育環境が充実していくように、同時に地域もますます活性化していくように、これからも学校応援団の取り組みを支援していきたいと考えています。



登下校での見守り隊活動



収穫祭での郷土料理(だまこもち)作り

成果

- ①放課後子ども教室に子どもを迎えに来る保護者も多く、気軽に話せる雰囲気から子育ての相談につながりました。一方で、学校や子育て関係部署などでも相談窓口があるので、窓口の一本化が必要ではないかと感じることもありましたが、小学生の子をもつ親の悩みを受け止める有効な機会となったと考えます。
- ②県の養成講座を修了した子育てサポーターリーダーや子育てサポーターと気軽に話す場であることを喜ぶ保護者もいました。
- ③子育てに関する情報紙がある程度定着してきたこともあり、反応は上々で、情報紙を見て行事等に参加したという声が聞かれました。
- ④行政機関、子育て支援団体やサークル等が連携したことにより、家庭教育や子育て支援に関する情報の収集が容易になりました。また、学校行事のほか、子ども会育成会の行事も併せて提供し、各学校等の様子が少しながらも知ることができると好評です。
- ⑤小学校での保護者向けの家庭教育に関する講座に家庭教育支援チームから講師を派遣し、家庭教育に関する情報提供ができました。



チームが活動している様子